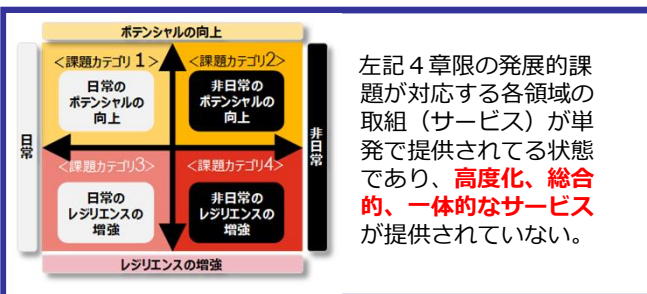


大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業 (大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアム)

■都市課題



■解決方策

エリマネデジタルツインの仕組みの構築による区域の発展的課題の解決に向けた**エリマネDXの実装**（バックエンド）。

エリマネDXにおいて、リアルタイムにデータを活用することで、意思決定プロセスの変容が起こり、高度・総合的・一体的なサービスが創出され（フロントエンド）、街の価値として「**創造性**」「**快適性**」「**効率性**」が飛躍的に高められる。

■KPI

創造性：イノベーションを**創造**し国際競争力あるビジネスを推進する**交流・出会い**のある街
スマートシティ関連実証実験数10件

快適性：ウェルネスを高め誰もが自分らしく心豊かに**安心・安全・便利**に活動できる**快適**な街
ヘルスケアアプリの導入者数5万人

効率性：サーキュラーエコノミーを実現する**環境と親和**した街、**ロボットや自動化**を導入し**効率的**な街
ロボット導入件数150台

■実証実験の概要・目的

- ① マップサービスアプリに東京都他事業を活用して導入したLLMを活用したAIチャットボット機能を通して、エリアの情報を一体的に提供することで来街者やワーカーに対して一定の行動変容を起こし、エリアでの回遊性向上や満足度向上につなげる施策の効果検証を行う。
- ② エリアマネジメントの表側（イベント・プロモーション等）と裏側（運営管理等）の連携の有効性を実証するため、エリアマネジメント活動でシステムにデータインプットされたイベント情報などが、一元的に管理され、可視化されることで活動の効率化やイベント誘致・発起の高度化が推進され、フロントサービスに連携されることで、サービスの一体化が推進するシステム開発を行う。

■実証実験の内容

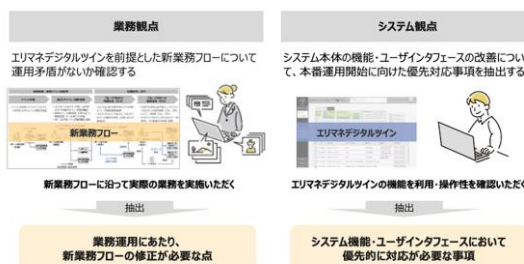
① エリア情報を一体的に提供することでユーザーに行動変容を起こすか検証

LLMを活用し、タイミングやシーンに応じて適切な回答が可能な丸の内AIコンシェルジュ（東京都他事業を活用）などの「**高度化・一体化**」されたサービスの実装として、行動の選択肢の情報提供のタイミングと方法がユーザーの満足度にどのような影響を与えるかに着眼する。



② エリアマネジメントの表側と裏側の連携の有効性を実証

エリマネ活動のデータベース化が効率化・高度化につながるかを検証するとともに、エリアデータとして一元化・可視化され、登録されたイベント情報などについて、フロントサービスへ連携する。エリマネの表側と裏側の連携の有効性を実証するため、データインプットしたイベント情報などが、可視化されることで**活動の効率化やイベント誘致・発起の高度化が推進され、フロントサービスに連携**されていることで、サービスの**一体化**が推進されているか、ユーザー評価等から確認をおこなう。



■実証実験で得られた成果・知見

丸の内AIコンシェルジュ（東京都他事業を活用）については、**システム実装上の課題や改善点はあるものの、生成AI（LLM）を活用した文章での的確な返答や、地域に特化した情報提供が評価された**。特に、ミュージアム情報や子ども連れでも利用しやすい店舗の紹介など、他のマップサービスにはないニッチな情報をチャットボット形式で提供できる点が強みとされ、ユーザーに新たな気づきを与え、行動変容を促す可能性が確認された。

一方、**公的空間のイベントを一元的に管理・可視化するシステムについては、エリマネ管理者のインタビューや打合せを通じて、その有用性が確認されたが、本番運用に向けて運用フローやUIの改善が求められた**。これらの課題は試験運用とシステム改修を経て概ね解消されたが、フロントサービスとの連携が限定的であり、有効性の評価にはさらなる検証が必要とされる。ただし、ユーザーインタビューでは、エリアマネジメント団体が保有する地域に特化した情報の活用が有効であることが示唆されており、今後の展開に向けた可能性が見出された。

■今後の予定

丸の内AIコンシェルジュ（東京都他事業を活用）の今後の取り組みとしては、属性、バリアフリー対応など、**多様なユーザーニーズ・シーンに応じた情報を拡充**し、様々な情報をマップサービス上に一体的に掲載・提供すると共に、多数の情報から**ニーズにあわせてお薦め情報を提示**する機能を実装し、その有効性の確認から、高度化・一体化に必要な機能実装の検討を行う。

エリマネデジタルツインは、試験運用を実施したエリマネ団体を起点に、公的空間を運営する各団体へシステムの**定着を広げ**、計11箇所のイベント情報を都市OSに蓄積・一体管理することで、**運営の高度化を図る**。また、防災をユースケースとした機能追加を検討し、**防災データを容易に投入・可視化**できる**インターフェースやビューワーを開発**し、計画段階での合意形成を促進することで、エリアマネジメントのさらなる高度化を目指す。